



給食だより

令和 5年9月29日
さいたま市立浦和中学校
給食室

世界の食料問題を考える日として国連が制定した日「毎年10月16日が世界食料デー」です。

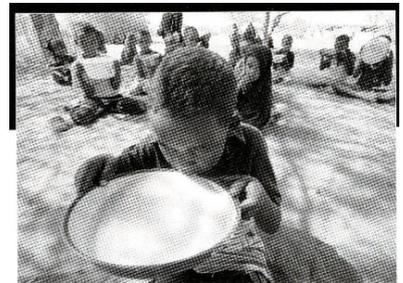


1979年に第20回FAO（世界食料農業機関）の総会決議に基づいて1981年から世界共通の日として制定されています。世界中の一人一人が協力しあい、もっとも重要な基本的人権である、「すべての人に食料を」を現実のものにし、世界に広がる栄養不良、飢餓、極度の貧困を解決していくことを目的としています。

この日をきっかけとして、自分自身の生活を見つめ直し、少しでも世界の人々と共に生きる生き方を実践しようとする人が増えることが「世界食料デー」の願いです。

食料はあるのに数秒に1人が空腹のまま命を落としている！

世界では、すべての人が十分に食べられるだけの食料は生産されていますが、2021年ユニセフの資料によると、8億2千800万人、世界人口の10人に1人が十分に食べることが出来ておらず「飢餓」の影響を受けています。2000年の14.7%から少しずつ減少していますが、2020年には、また急増しています。これはコロナのパンデミックが原因ではありますが、現在は戦争の影響が懸念されています。



2021年には、世界人口の29.3%の約23億人が、中度～重度の食料不安に陥り、コロナ前に比較すると9億2千400万人が深刻なレベルの食料不安になっています。加えて、世界の死亡原因の第1位は「飢え」によるものといわれます。その影響の多くは女性や子どもたちで、その多くが1日1度の食事すらとることができず、空腹のまま不安な日々を送っています。

世界の推定4千500万人の5歳未満児が栄養不良に陥っており、子どもの死亡リスクが最大1.2倍にもなっています。また、1億4千900万人の5歳未満児が、食事に含まれる必須栄養量（発育・発達に欠かせない栄養）が慢性的に不足していることが原因で発育障害になってしまっています。一方で、たくさんの食べ物を輸入しながら、たくさんムダにしている私たち……。すべての人が、いつでも、どこにいても、安全で栄養があるものを十分食べられるように、「世界食料デー」をきっかけに何ができるのかを考え、できることから始めてみませんか。（写真は unicef より 資料 世界の食料安全保障と栄養の現状 2022）

災害にも備え、食料廃棄の問題への取り組みとして、浦和中は防災給食を行いました！！

日本は食料自給率37%で、海外に頼る食生活です。しかも食べられずに廃棄される食料も年間2000万トンともいわれます。給食は中学生である成長期の今、健康を最優先で考えて食べるべき量でもありますが、ローリングストックで、環境への負荷やSDGsに貢献してみましよう。

9月20日(水)の給食です。(市役所にある廃棄期日前の防災備蓄品やレトルト食品を使用しました。)ビスケットはカスタード&ホイップでデザートをつくりました。



熱湯でもどす混ぜご飯→